



渋谷の思い出とグリーンケア

実家が目黒区にあったこともあり、小学生の4年生頃より夏休みなどは渋谷にある塾に夏期講習にでかけていました。中学・高校時代には道玄坂の映画館にはよく通い、名画座でリバイバルの映画を観るのが好きでした。

高校2年のとき、歩道橋の上から渋谷を行き交う大勢の人を眺めながら感じたことがあります。

もし、今、自分がこの世からいなくなったとしても、明日も、この人たちは、今日と変わらず、あたりまえのように行き来するのだろう…と。そう思えると、いかに自分が小さく、ちっぽけな存在であることに気づかされ、悲しい思いになりました。

その一方で、こんなちっぽけな自分でも、たった1人でもよいから、誰かが喜んでくれたならば、お金では得られない本当の幸せに近づけるかもしれないと…。

できれば、そんな力を身につけたいとも思いました。そして、巡り巡って、医師となり、今があります。

何年経験しても、すべての苦しみをゼロにすることはできません。病気を診断し、治療するだけでなく、避けることのできない「死」とどう対峙するのか、そして、残された家族の悲しみとどう向き合っていくのか。

励ましも、慰めもまったく通じないなかで、唯一、残り続けることは、「苦しんでいる人は、自分の苦しみをわかってくれる人がいると嬉しい」ということでした。

たとえ絶望の真っ暗闇の中であって、どうにもならない苦しみがあったとしても、たった1人でも、自分の苦しみをわかってくれる人がいれば、世の中は、違って見えてくる可能性があります。

とはいえ、その道は決して容易な道ではありません。怒りをぶつけられることもあります。笑顔になんて、とてなれない現場でもあります。

それでも、こだわってこの仕事を続けてきました。まだ道半ばではありますが、これからもこの道をまっすぐに進みたいと思います。

（小澤竹俊）

緩和医療学会にて発表

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、緩和医療学会は、WEB開催として8月に開かれました。スピリチュアルケアのカテゴリーで、ポスター発表の機会に加え、優秀発表として口述の発表が許され、オンラインで視聴が可能となりました。緩和医療学会のプログラム委員会の中で、スピリチュアルケアとして登録された5題の中で選ばれたことは、とても光栄なことです。さらにオンラインのメリットを活かして、2021年1月31日まで視聴することができます。演題は「援助的コミュニケーションを学ぶ2日間研修と継続学習できる地域学習会システム」です。

第3回 医療デザイン大学 LIVE

第3回 医療デザイン大学 LIVE が8月5日に横浜で開催されました。登壇者は、副島 賢和（昭和大学准教授/院内学級担当）、濱田努（きいれ浜田クリニック院長）、カンジヤマ・マイム A（パントマイミスト）、秋竹 朋子（音楽家・ボイストレーナー）、桑畑 健（日本医療デザインセンター代表理事/デザイナー）、と豪華な布陣で、120人を超える全国からの参加がありました。ありがとうございました。



診 療 実 績

	2006- 2019年	2020年 1-4月	5月	6月	7月	2020年 計	総計
訪問回数	81,109	2,880	562	627	657	4,726	85,835
自宅永眠	2,470	59	15	15	11	100	2,570
施設永眠	409	25	2	7	2	36	445
在宅 (自宅+施設)	2,879	84	17	22	13	136	3,015
病院永眠	794	28	3	6	5	42	836